

Editor's Note

旧ディスクロージャー研究学会、旧日本ディスクロージャー研究学会を経て、2019年6月に旧日本経営分析学会と統合して誕生した日本経済会計学会の下で、初めて『現代ディスクロージャー研究』を発刊し、皆様にお届けできることになりました。学会統合により、『現代ディスクロージャー研究』が扱う領域は、これまでのディスクロージャーに関する研究に加えて、会計学、経営学、経済学、経営分析、およびその他関連研究といった広範囲の研究領域をカバーすることになりますが、自他ともに認める日本のトップジャーナルの1つとしての位置付けは、今後も変わることはありません。

本18号においては、論文セッションに7本の投稿があり、厳正な審査の結果、2本が採択されました(次ページの編集データ参照)。

1本目の論文は、経営者予想の正確度と経営者交代の関係を検証したものです。分析の結果、経営者予想の正確度が低い経営者ほど、営者交代の可能性が高くなるという証拠を提示しています。また、経営者予想の正確度と経営者交代の関係が企業業績の良し悪しや株式持合の程度とどのように関係しているのかも明らかにしています。

2本目の論文は、日本の地域銀行を分析対象として、個別貸倒引当金繰入額が将来業績のシグナルとなっているかどうかを検証したものです。分析の結果、個別貸倒引当金繰入額を過大に計上している銀行ほど将来業績が良好で株価も高いという証拠を提示しています。そのシグナリング効果が景気変動とどのように関係しているのかも明らかにしています。

いずれの論文も、日本独自の制度環境をうまく利用した実証研究であり、オリジナリティの高い研究テーマについて、様々な角度から丁寧な検証が行われており、査読委員から高い評価を得ています。また、字数制限を設けていない本学会誌の特徴を活かし、ボリュームが非常に大きい点も共通しています。今後も十分な紙幅をとって完成度の高い論文の掲載を継続する予定です。

最後になりましたが、査読をご快諾いただき、本学会誌の研究水準の向上に貢献していただいた査読委員の皆様にあらためて感謝申し上げます。

『現代ディスクロージャー研究』編集委員長
石川博行

編集データ

『現代ディスクロージャー研究』第18号の編集状況は、次のとおりである。全ての原稿は、編集委員会が採否を決定した。また、論文セッションの原稿は、複数の匿名査読委員によってレビューされている。

論文セッション

受付数	7
受理数（採択率）	2（29%）

編集委員会

謝 辞

査読委員による真摯なレビューによって、本誌の高い品質が確保されました。編集委員会は、ここに記して、第18号の査読委員の皆様へ感謝の意を表します。

浅野 敬志 東京都立大学
一ノ宮 士郎 専修大学
榎本 正博 神戸大学
大鹿 智基 早稲田大学
大沼 宏 中央大学
音川 和久 神戸大学
乙政 正太 関西大学
首藤 昭信 東京大学
高須 悠介 横浜国立大学
高田 知美 神戸大学
田澤 宗裕 名城大学
村宮 克彦 大阪大学
山口 朋泰 東北学院大学
(敬称略、五十音順)

編集委員会